

## 科学部と2年生総合的な学習“土岐川ゼミの活動で”

### 土岐川 1000 匹調査のボランティアに参加しました！

9月15日(日)に多治見市土岐川観察館が主催する1000匹調査(定点調査)のボランティアとして参加してきました。今回は大原川と土岐川の合流地点や土岐川本流の生物調査を行いました。今回の調査は土岐川観察館が定期的実施している重要な調査の1つです。これまでに指導していただいた魚の捕獲方法を駆使しての生物調査や同定作業を行いました。今回は、土岐川漁業協同組合の方も参加して行われ、投網を用いた捕獲も実施しました。今回の調査で、特定外来種であるブルーギルが前年と比べて数が増えていることが分かりました。この結果を受け、特定外来種の駆除活動も行っていく必要があります。また、今シーズンは大雨による土岐川の増水が多く、多くの魚が流されてしまい、近年は捕獲できていたアユが、今回の調査では1匹のみの捕獲しかできませんでした。土岐川でのアユの生存が心配な結果となりました。大型魚では、48センチと46センチのナマズが2匹捕獲されました。近年、土岐川では新種のナマズの生存が確認されており、今回も新種と期待されましたが、一般的なナマズでした。

今回の生物調査には中学生も参加していました。これまでの土岐川の生物調査を通して魚の捕獲方法・魚種を学んできた本校の生徒が、中学生に魚の取り方及び同定方法を教えることもできました。実際に魚を捕獲することは難しかったですが、双方の生徒にとって大変貴重な経験となったと思います。今後の活動は、土岐川の生物に関する調査データが集まってきたので、ゼミや放課後の時間を活用して、何のような形で発表・報告するのか各班で考えていきたいと思っています。



観察館の山本館長から調査の説明を聞いています



漁協の方と流れの速い箇所の調査を行います。オイカワなどの生息地です。



投網での捕獲の様子



投網にかかった魚を網から外します

#### 【生徒感想】

・前回の調査よりも大がかりで、楽しく生物調査をすることができた。どのような場所にどのような魚がいるのかを知ることができました。例えばオイカワは流れが速い場所を好むなど土岐川の生物調査を通して、自分の知らなかった魚などを捕まえることができ、魚にすごく興味を持ってました。川の楽しさをいろいろな人に伝えられたらいいなと思いました。今後の金沢と滋賀で今回のゼミでの活動を発表するので、土岐川の生物のことを他県の人達に伝えていきます。

・今回は大原川合流地点と国長橋付近の生物調査を行いました。どちらの付近も水深が深く、草が生い茂っていたので、タモを使った捕獲はとても難しかったです。捕れた魚の名前が分からない時があったので魚の名前をしっかりと覚えておかないといけないと思いました。

・今日は投網班として活動しました。今までよりも大きなオイカワやナマズが捕れ、とても楽しかったです。同定作業も前回よりスムーズに行うことができ、魚の名前もスラスラ言えたので良かったです。次回は投網を投げてみたいと思いました。

担当教員：佐賀達矢 杉本真弥 下総郁子